

# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]  
(平成18年5月解析分)

## 1 疾患別定点情報

定点把握(週報)五類感染症 平成18年4月分(平成18年4月3日~4月30日:4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	254	0.55	1.98	↓	12	ヘルパンギーナ	30	0.10	0.11	↑
2	RSウイルス感染症	25	0.09	-	↓	13	麻疹	0	0.00	0.19	
3	咽頭結膜熱	131	0.45	0.19	↔	14	流行性耳下腺炎	382	1.33	1.02	↘
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	457	1.59	0.90	↘	15	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.03	
5	感染性胃腸炎	2,547	8.84	7.69	↘	16	流行性角結膜炎	103	1.36	1.30	↘
6	水痘	569	1.98	1.58	↘	17	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	手足口病	7	0.02	0.19		18	無菌性髄膜炎	9	0.11	0.04	
8	伝染性紅斑	74	0.26	0.29	↔	19	マイコプラズマ肺炎	33	0.39	0.13	↑
9	突発性発しん	165	0.57	0.72	↘	20	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
10	百日咳	5	0.02	0.01		21	成人麻疹	0	0.00	0.01	
11	風しん	0	0.00	0.04		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↘	↔
↓	↙	↕	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾患No.	1	1~14	15, 16	22~25	17~21, 26~28	
定点数	43	72	19	23	21	178

定点把握(月報)五類感染症

平成18年4月分(4月1日~4月30日)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	53	2.30	1.94	↔	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	111	5.29	6.25	↘
23	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.65	0.59	↔	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	32	1.52	3.15	↘
24	尖圭コンジローマ	17	0.74	0.51	↗	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	4	0.19	0.34	
25	淋菌感染症	11	0.48	0.79	↘	「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

インフルエンザ 急減(3月580件 4月254件)  
RSウイルス感染症 急減(3月83件 4月25件)

ヘルパンギーナ 急増(3月15件 4月30件)  
マイコプラズマ肺炎 急増(3月16件 4月33件)

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

一類感染症	発生なし
二類感染症	発生なし
三類感染症	1件発生【腸管出血性大腸菌感染症(0157)(広島市保健所管内)】
四類感染症	2件発生【A型肝炎2件(広島市保健所管内)】
全数把握五類感染症	5件発生【後天性免疫不全症候群1件(広島市保健所管内) アメーバ赤痢1件(福山地域保健所管内) B型肝炎1件, C型肝炎1件(広島地域保健所管内) 梅毒1件(広島市保健所管内)】

## 3 一般情報

### 【これからの時期注意すべき感染症について】

これから夏季に向けて、咽頭結膜熱(プール熱)、手足口病、ヘルパンギーナが流行する時期となり、注意が必要です。

#### 咽頭結膜熱(プール熱)

病原体はアデノウイルスで、感染してから5～7日で発病します。

感染経路は、飛沫感染や経口あるいは経結膜感染もあります。

症状は、発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠、咽頭痛、結膜充血、眼痛等です。

予防方法は、感染者との接触を避ける、うがいと手洗いの励行で、プールに入る前や出たときはシャワーを十分にいき、タオルの共用はやめましょう。

#### 手足口病

病原体は、エンテロウイルスで、感染してから3～5日で発病します。感染経路は飛沫感染、糞口感染、水疱内容物の直接接触による感染があります。症状は、感染してから、口腔粘膜及び四肢末に現れる水疱性の発疹が特徴で、発症者の1/3に軽度の発熱があります。

基本的には、数日間で自然治癒する病気です。予防方法は、排泄物の取扱いに注意することや手洗いの励行が重要です。

#### ヘルパンギーナ

病原体は、コクサッキーウイルスで、感染してから2～4日で発病します。感染経路は、感染の初期に咳などでのどから排泄されたウイルスによる飛沫感染によることが多いが、便からもウイルスが排出されます。症状は、発熱、咽頭痛、頭痛、筋肉痛等です。

予防方法は、乳幼児のオムツの交換の際には、手洗いの励行を行なうことと、洗濯物を日光で乾かすことなどです。

### 【ウエストナイル熱(脳炎)について】

1999年、米国ニューヨークで患者が報告されて以来、米国内で毎年流行しています。

2005年は、米国内の42州で2799人が罹患し、その内102人が死亡しています。

近年、カリフォルニア州等の西海岸でも患者が多く発生していますが、昨年9月、同地域からの帰国者が国内で初めてウエストナイル熱に感染していることが確認されました。

・好発年齢	脳炎型は高齢者に多く見られます。
・好発時期	夏期から初秋にかけて多く発生します。
・病原体	フラビウイルス科のウエストナイルウイルスで、日本脳炎ウイルスに類似のウイルスです。
・潜伏期間	2～14日(通常は2～6日)
・感染経路	自然界においては、蚊と鳥の感染サイクルが維持されており、ヒトはウエストナイル感染蚊に刺されたことにより感染する。通常ヒトからヒトへの感染はない。
・症状	突然の発熱、頭痛、背部の痛み、筋肉痛、食欲不振などの症状があります。約半数で発疹が胸部、背、上肢に認められます。通常症状は1週間以内で回復します。脳炎は高齢者に多く見られ、重篤な症状を呈します。
・予防方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチンはなく、流行地域では蚊との接触を避けることが重要です。</li> <li>・蚊の活動期(夕方から夜明け)に屋外で過ごすことをなるべく避ける。</li> <li>・露出している皮膚への虫除け剤を使用する。</li> <li>・戸外に出るときはできるだけ長袖、長ズボンを着用する。などの注意が必要です。</li> </ul> <p>なお、米国などの流行地域を旅行される場合は、蚊との接触を避けるなどの注意が特に重要です。</p>